

防災塾・だるま×神奈川大学連携講座

## 新時代の防災力向上セミナー

オンライン講座  
(ライブ)

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは、神奈川大学工学部荻本孝久教授を名誉塾長に、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献している市民防災の活動グループです。

## 内容

2023年は関東大震災100年。昨年で阪神淡路大震災四半世紀を経て、今年は東日本大震災10年です。また、世界的感染症拡大を克服する闘いの最中にあります。巨大災害の教訓は社会も災害対策も変化させ、現在は「防災の新時代」への重要な過渡期にあると考えられます。防災を自助、共助、公助の観点から見れば、進捗した面、

課題が残る面もあり、それを統合する「地域社会の連携と参画」という推進すべき大きな課題も見えてきます。

本講座では、家庭の防災、自治会・マンション等での防災、公助と連携した防災など多様な課題意識をもって防災活動に取り組まれている受講者のニーズに応え、情報提供を目指しています。

申込期間

9/1(水)～9/16(木)

受講料

4,000円

会場

ライブ・オンデマンド有

定員

—

## 講座日程

14:00～~~15:20~~<sup>16:30</sup> 全3回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	9/30(木)	荻本 孝久	近代の自然災害から目指す防災まちづくり ～災害史と防災対策の変遷、そして新時代の防災への展望～
		釜石 徹	災害時でも自宅で10日以上生活するためのノウハウ ～家庭の防災力を向上させれば災害は怖くない～
2	10/7(木)	原田 剛	発災から1時間以内の救出を目指す ～災害時に機能する自主防災組織～
		高松 清美	被災地で現実に起きていること ～被災地の現実に学ぶ防災まちづくり～
3	10/14(木)	五十嵐ゆかり	女性視点の避難所運営 ～東日本大震災における支援活動から～
		鷺山龍太郎	自助・共助・公助の統合をめざして ～住民、学校、地域の多様な組織が連携・参画する防災まちづくり～

## 講師紹介

## 荻本 孝久

神奈川大学工学部教授  
防災塾・だるま名誉塾長

地盤と建築物の構造による被害を研究。日本及び世界の被災地を現地調査し災害と対策の変遷を研究。ハード面の研究と共に、ソフト面では防災まちづくりの構築の必要性を重視し、市民団体「防災塾・だるま」を設立。市民と共に防災意識、知識、地域連携推進に尽力。

## 釜石 徹

災害対策研究会主任研究員

防災対策の研究を長年続け2012年から防災コンサルとして活動している。自治体、マンション、町会・自治会、震災対策技術展などで災害時の実践的な在宅避難対策を具体的に解説しわかりやすいと好評を得ている。朝日、毎日、日経、読売、神奈川の各新聞、夕刊フジ、婦人之友からの取材や毎日放送ラジオやFMラジオにも多数出演。昨年著書「マンション防災の新常識」(合同フォレスト社)を刊行。

## 原田 剛

千村台自主防災会副会長  
QQ防災クラブ

自治会内における事前の防火対策、震災直後1時間以内に住民の安否確認と救出活動ができる実践的な共助体制を構築。地域の防災人材の育成を推進。千村台自主防災会は消防庁「防災まちづくり大賞」において「日本防火・防災協会会長賞」を受賞。

## 高松 清美

NPO法人ユナイテッドかながわ副代表  
(旧)よこはま七つ星代表

阪神・淡路大震災以来、市民と団体をつなぐ中間組織としてボランティア団体「七つ星」を設立。東日本大震災以降も被災地にも何十回と足を運び、現地の課題解決に取組む。被災地の現実を直視し、未災地のあいさつから始まる防災まちづくりを提唱。

## 五十嵐ゆかり

聖路加国際大学  
大学院看護研究科教授

防災・減災の女性セミナーを提供。東日本大震災における支援活動をもとに女性視点の災害への準備や避難所運営の重要性について提唱。避難所のレイアウトを含めたトイレ・衛生・防犯対策など女性、妊娠婦、母子にもやさしい避難所運営を提案。

## 鷺山龍太郎

防災塾・だるま塾長  
元横浜市立小学校校長

横浜市立小学校長として、地域住民、保護者と学校が連携した防災教育と防災まちづくりを推進。郷土の地学教育推進と、連携と参画による防災まちづくりを提唱。勤務した横浜市立太尾小学区は2020年度消防庁「防災まちづくり大賞」で「総務大臣賞」を受賞している。